

静岡県教育委員会教育長賞

がんばって生きているちび

藤枝市立青島東小学校

三年 杉村 心 春

わたしの家では、ネコの「ちび」をかっています。ちびは、十五才のおじいちゃんネコです。えさをほしい時には、ニャーニャーと大きな声で鳴いたり、わたしが学校から帰ってくると、げんかんで待っていてくれたり、元気でかわいいネコでした。そんなある日、ちびにいへんがあることに気がつきました。それは、目のどうこうが丸くなったままということです。そして、前までは、わたしのひざにのってあまえて来たのに、こなくなったり、部屋中を歩き回り、かべに頭をぶついたりするようになりました。そんなちびのすがたに、わたしは、すごく心もやもやしました。心の中でつぶやきました。

「なんで？ちびは大じょうぶなのかな？」

と、とても心配になりました。そして、おばあちゃんと妹といっしょに、動物病院へ行きました。そうしたら先生が、

「目が見えにくくなっています。それと、心ぞうが弱っています。」

と、言いました。その時、わたしは思いました。

「わたしがくやしい時や悲しい時など、いつもちびが、そばで

はげましてくれていたから、今度はわたしが、ちびのせわして力になるよ。それでせつたいに元気になってね。」

と。そして、夏休みの手つだいをネコの世話にしました。目が悪いちびは、えさの場所もわからないので、えさの前まで、つれていってあげます。トイレの場所もわからないのでオムツをつけてあげます。まだまだ病気はなおらないけど、すごくがんばって生きているちびです。

わたしは、本当に本当に、ちびの事が、大すきです。宝物でもあり、家ぞくのようなそんざいなので、これからも、自分からしっかり世話をしていきたいです。